

名称：相国寺エリア

エリアの概況



＜相国寺の境内＞
禅院の荘厳な雰囲気



＜相国寺の境内と学校施設＞
落ち着いた環境を形成



相国寺の境内から東山への眺望



京都御所の緑（今出川通）



＜相国寺東側の通り＞
相国寺と一体となった通り景観



＜相国寺南側の通り＞
相国寺と一体となった通り景観



＜相国寺参道＞
緑景観の連続性の保全

■エリアの景観形成の方針

相国寺風致地区

地区の風致特性及び維持すべき風致の内容：相国寺の広々とした境内は禅院らしい厳肅な雰囲気¹に包まれ、東に鴨川を越えて遙か東山連邦を望む。相国寺近傍は境内地と学校施設により構成され、落ち着いた環境を形成している。この緑豊かな落ち着いた環境のある空間の保全を図るものとする。

修景の重点：相国寺境内では、境内の空間の確保や緑の保全に重点を置き、参道沿道では、緑景観の連続性の保全に重点を置く。

旧市街地型美観地区 御所周辺

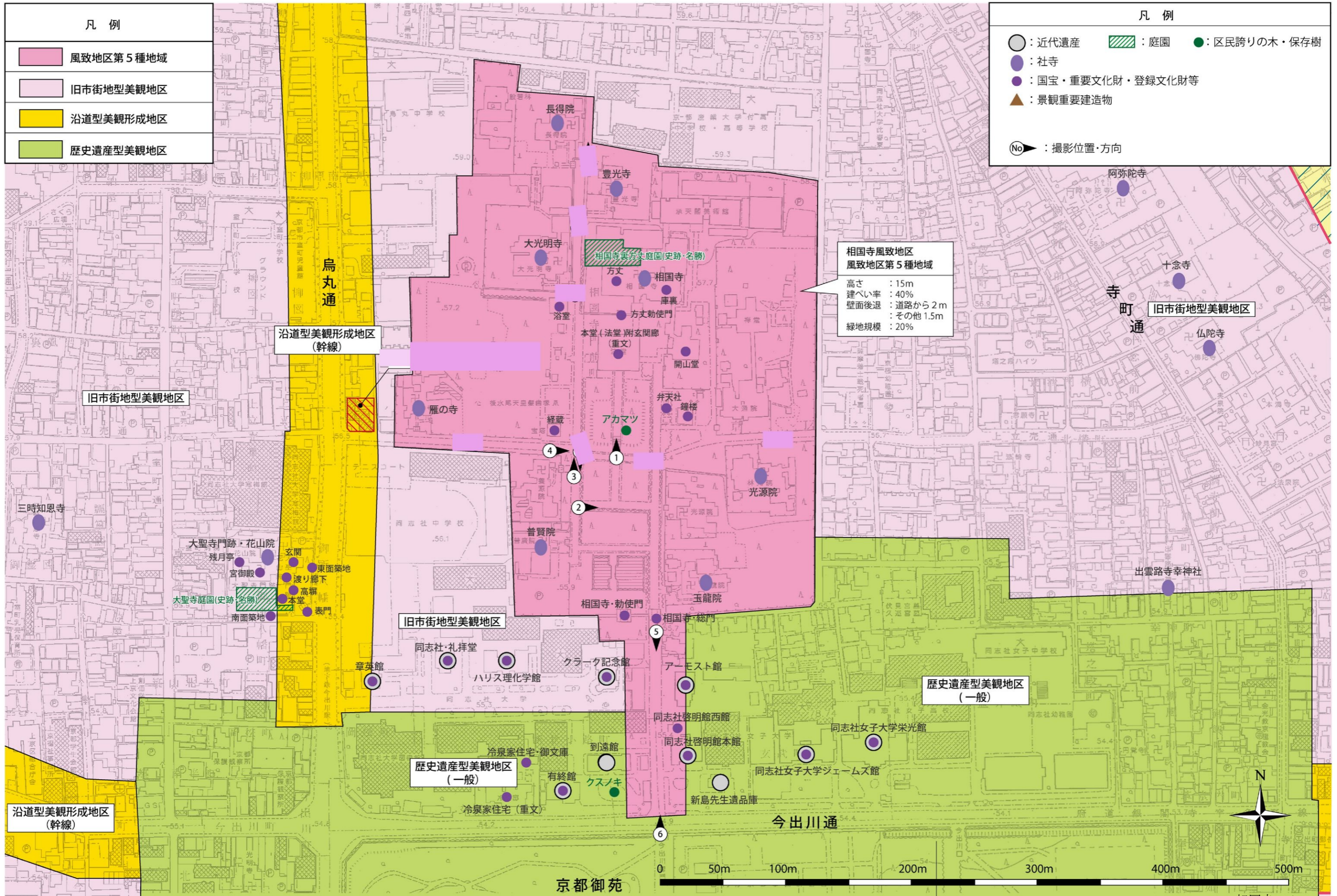
・緑豊かな御所の周囲を取り囲む地域から構成される。旧市街地景観を色濃く残し、近代建築物や寺院の堂宇が景観に重厚さを与えており、この地域の各所から、御所や相国寺の豊かな緑を垣間見ることができる。こうした景観特性の継承を図る。

歴史遺産型美観地区 一般地区 御所

・御所の緑が景観上重要な構成要素となっており、御所を取り囲む通りの沿道の敷地には、格調ある建築物と手入れの行き届いた植栽が施され、まとまりのある景観を形成しており、御所の緑と呼応して良好な景観を形成している。こうした景観特性の継承を図る。

沿道型美観形成地区 幹線地区 その他沿道

・歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。



相国寺及び参道(視点場)の概要

【相国寺エリア】

① 境内の写真



写真① 相国寺本堂（法堂）（国指定重要文化財）



写真② 境内地内（東向き）



写真③ 境内地内（北向き）
遠方には北山が見える。



写真④ 境内地内 東向き
経蔵（府指定有形文化財）とアカマツ林



写真⑤ 参道（総門から南向き）



写真⑥ 参道（今出川通から北向き）

② 相国寺 概要

臨済宗相国寺派の大本山である相国寺は、京都五山第二位に列せられる名刹です。正式名称は萬年山相國承天禪寺。十四世紀末、室町幕府三代将軍の足利義満により創建されました。幾度も焼失と復興の歴史を繰り返しましたが、現存する法堂は日本最古の法堂建築として一六〇五年に再建された物を今に伝えています。夢窓疎石を開山とし、創建当時は室町一条あたりに総門があったといわれ、北は上御霊神社の森、東は寺町通、西は大宮通にわたり、約百四十四万坪の壮大な敷地に五十あまりの塔頭寺院があったと伝えられています。

この地はもと、伝教大師開創の出雲寺、源空上人の神宮寺（後の百万遍知恩寺）、安聖寺の旧跡にまたがっています。創立当時の相国寺は南は室町一条あたりに総門があったといわれ、北は上御霊神社の森、東は寺町、西は大宮通にわたり、約144万坪の寺域がありました。現在でも東門前には「塔之段」という町名が残っており、かつての七層宝塔の旧跡といわれています。「毘沙門町」は毘沙門堂址であるといわれています。

現在は相国寺の南には同志社大学、北には京都産業大学附属中学・高校がありますが、これら学校の敷地の大部分は天明の大火以後復興できなかった寺院や、明治維新後廃合した寺院の址地です。幕末に諸堂が再建され旧観を復するにいたったのですが、現在の寺域は約4万坪あります。

境内には本山相国寺をはじめ、13の塔頭寺院があり、山外塔頭に鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）、真如寺があります。また全国に100カ寺の末寺を擁しています。（相国寺HPより）

重要文化財	本堂（法堂）附玄関廊 1棟
府指定文化財	方丈、庫裏、方丈勅使門、開山堂、弁天社、鐘楼、経蔵、総門、勅使門、浴室
市指定名勝	裏方丈庭園

（区民誇りの木）

相国寺 アカマツ

「1788年の天明大火で焼失した三門と仏殿の跡地にできた林です。アカマツは裸地となった所に最初に根付く性質があります。広いアカマツ林は、相国寺境内の一大景観であるとともに、大都市内のアカマツ林としては貴重な存在でもあります。」（冊子 区民誇りの木 上京区より）

相国寺（視点場内）の歴史的資産

【相国寺エリア】

大光明寺	玉龍院	光源院	長得院
<p>当寺は相国寺が建立される以前、暦応2年(1339)に後伏見天皇(1288～1335)の皇后、広義門院西園寺寧子が天皇の菩提を弔うため、伏見離宮の傍らに一寺を建立したのが始まりであり、皇后の法号大光明院を寺号とした。</p> <p>皇后は珣子内親王、光厳天皇、景仁親王、光明天皇の母として北朝を良く支えられたが、正平12年(1357)、65歳をもって薨ぜられた。皇后の孫にあたる伏見宮祖栄仁(よしひと)親王が薨じ、寺内に葬り安置されて以来、伏見宮家歴代の御位牌をまつる菩提寺となった。その後一時疲弊し、慶長年間に火災にあうも、元和元年(1615)に徳川家康により相国寺塔頭として再興された。</p> <p>明治36年(1903)、塔頭の心華院と当時天明の大火で焼失していた大光明寺、及びすでに廃絶していた常徳院の3ヶ寺が合併され、心華院の寺域伽藍を改めて、寺号も大光明寺として再興された。(相国寺HPより)</p> 	<p>相国寺第五世雲溪和尚を開祖とする。雲溪和尚は相国寺第四世太清和尚の法弟であり、ともに雪村友梅禅師の法系である。足利義満が雪村友梅禅師の法嗣太清宗渭(相国寺第四世住持)を相国寺に迎請するため、その禅室として創設された。</p> <p>明治維新後、久しく無住状態に陥り、廢類の危機に瀕するが、第十三世良谷惠譲和尚が中興となり、寺の再興に力を注いだ。昭和五年(1930)現在地に移転改築した。(相国寺HPより)</p> 	<p>当院は相国寺28世元容和尚の塔所で、応永28年(1421)に創建され、広徳軒と称した。師は二世普明国師に法を嗣ぎ、同年8月12日入寺、同32年(1425)3月17日示寂。永禄8年(1565)足利義輝が死去してその菩提寺となり、義輝の院号により光源院と改称した。もとの光源院は現今の東にあり、天明の火災を免れるが、明治18年(1885)その建物を毀ち、同29年(1895)善應院に合併し、善應院を廃して光源院と改めた。</p> <p>昭和63年(1988)には本堂、庫裡を改修し、新粧なった本堂の仏間十二面の襖には日展特選作家、水田慶泉画伯が構想を練って、約半年がかりで描き上げた禅宗寺院には珍しい千支を配した襖絵が描かれている。(相国寺HPより)</p> 	<p>相国寺第十九世佛慧正續国師鄂隠和尚の禅室、塔所であり、はじめは大幢院と号した。至徳年間、明国に遊び、諸山の名宿に歴参すること十余年、帰朝して絶海の法を嗣ぎ、等持寺を経て応永17年(1410)相国寺に入寺(第19世)した。</p> <p>応永24年(1417)天龍寺に入寺、9月5日退山。以後土佐の吸江庵に隠棲してその中興となり、応永32年(1425)2月18日同庵にて遷化された。同年2月27日義量薨じて長得院殿と号し、当院を影堂とし、寺号を長得院と改名した。現在の建物は天明の火災の後、文政3年(1820)庫裡再建、天保5年(1834)旧慈受院よりの金百七十兩の助資金によって客殿を再建した。(相国寺HPより)</p> 
<p>相国寺第92世西笑承兌和尚が慶長3年(1598)8月、豊臣秀吉逝去の後、その追善のため豊光寺を創立した。師は天正12年(1584)2月19日、相国寺入寺。慶長12年(1607)7月、徳川家康は豊光寺を訪問しているが、同年12月27日、西笑和尚示寂。豊光寺は以後、漸次廢に及び、天明8年(1788)の大火で焼失し、廢絶の運命にあった。獨園承珠和尚がこれを嘆かれ、明治15年(1882)子院冷香軒を合併し、その客殿を移し、同16年(1883)庫裡、玄関等を新築、さらに19年(1886)信徒井上五郎兵衛氏の隠宅の寄付をうけ、これを書院とし、若干の基金を備え一カ寺として再建された。</p> <p>獨園和尚遷化の後、明治32年(1899)4月、參学の有志により「退耕塔」が建てられた。豊光寺の山門は平唐門で、様式上桃山期か江戸初期のもので、柱が側面の藁股まで延びており、平安時代からの古い伝統を伝えている。(相国寺HPより)</p> 	<p>相国寺塔頭。建立は1466(文正1)年。正式名は瑞春院室町末期「蔭涼軒日録」(おんりょうけんにちろく)＝禅寺の僧事一般を將軍へ披露する役を務めた蔭涼軒主の公用日記＝を記した亀泉集証が創建。初め雲頂院と号した。天明の大火で焼失、弘化、嘉永年間(1848・54)に再建(客殿は明治31)された。水上勉の『雁の寺』の舞台として知られる。(京都観光ナビホームページより)</p> 		

文化財一覧

重要文化財	同志社大学（クラーク記念館 他5棟）、冷泉家住宅
国登録文化財	大聖寺（玄関、宮御殿、本堂、渡り廊下、残月亭） 同志社大学（アーモスト館、栄光館 他2棟）
市指定名勝	大聖寺庭園
良好な京町家	新町通沿いに数件

＜同志社大学＞

明治六大教育家の一人である新島襄によって 1875 年に創立された同志社英学校を前身とする大学。

【同志社大学栄光館】

寄棟造棧瓦葺きで、搭屋は八注屋根、講堂は切妻屋根とする。清和館、ジェームズ館と共通する立面構成を採るが、テラコッタを多用するなど、新しい要素も付け加えている。中央の八角塔は、建物全体に比べて大ぶりだが、彫の浅いデザインのため軽く見える。玄関・ホールには武田五一が沖縄で発見したトラヴァーチンである宇留間石が使われている。（「京都市の近代化遺産」より抜粋）

建築年：昭和7年 設計：武田五一



【同志社大学アーモスト館】

マンサード屋根を載せ、屋根裏も居室として用いる。ジョージアンスタイルの形式手法を生かして、学内で最も美しい建物と評価されることも多い。RC造だが、壁体は煉瓦を積んで作っており、そのことが様式的な正統性を守る一因となっている。室内も当初の姿をよくとどめる。特に社交室のインテリアはアダム・スタイルを用いて、この様式特有の女性的な華やかさを展開する。（「京都市の近代化遺産」より抜粋）

建築年：昭和7年 設計：ヴォーリズ建築事務所



＜冷泉家住宅＞

冷泉家住宅は、完全な姿で現存する唯一の公家屋敷です。京都御所周辺の旧公家町に近世初頭以来の土地を守り、寛政2年に再建された建物と、その配置構成は旧制を忠実に伝えた貴重な遺構として知られています。冷泉家は藤原定家という歌人の子孫で、住宅は寛政2年（1790）の建築です。文庫には国宝の藤原俊成自筆「古来風躰抄（こらいふうていしょう）」他、多くの貴重な典籍が保存されていて、これらもまた重要文化財に指定されています。冷泉家伝来の典籍及び古文書類は、長家、俊成、定家以来の家学である和歌に関するものを中心に、数万点にのぼります。中世から近世にかけて、その時代の公家や武家の手で書き写されて流布したのも多く、伝統文化の継承と新しい文化の形成に重要な役割を果たしてきました。



＜大聖寺門跡・花山院＞

江戸時代後期まで内親王が入寺し、比丘尼御所の第一位とされた。また、御寺、御寺御所とも呼ばれた。この地は、室町幕府「花の御所」の遺構といわれている。山号を岳松山という。かつて臨済宗相国寺派、現在は単立。本尊は釈迦如来像。尼五山のひとつ。神仏霊場会第98番、京都18番。尼寺霊場の一つ。

南北朝時代、足利義満は、天皇妃で出家した無相定円禅尼を室町御所岡松殿に迎え安禅所としたことに始まる。1382年、禅尼没後、その遺言に従い殿を尼寺とする。法名「大聖寺殿無相定円禅定尼」に因み大聖寺とした。江戸時代、1673年、大聖寺(上京区毘沙門町)は焼失している。1675年、この地にあった聖護院が焼失し、現在地(左京区聖護院)に移転した。1944年、東京の青山御所より現在の本堂が移築された。1985年、庭園は京都市指定文化財になる。（京都風光HPより）

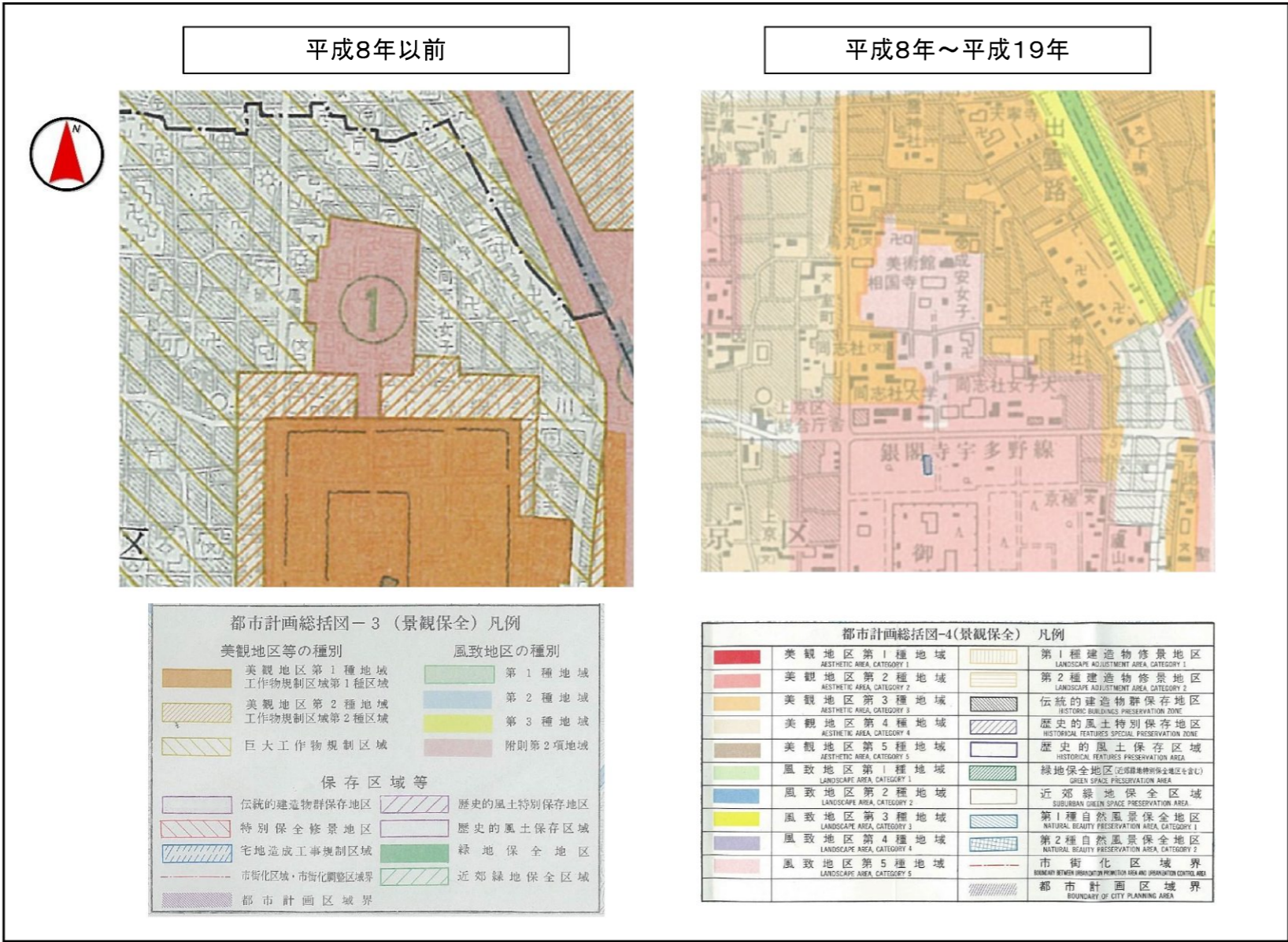


＜良好な京町家＞

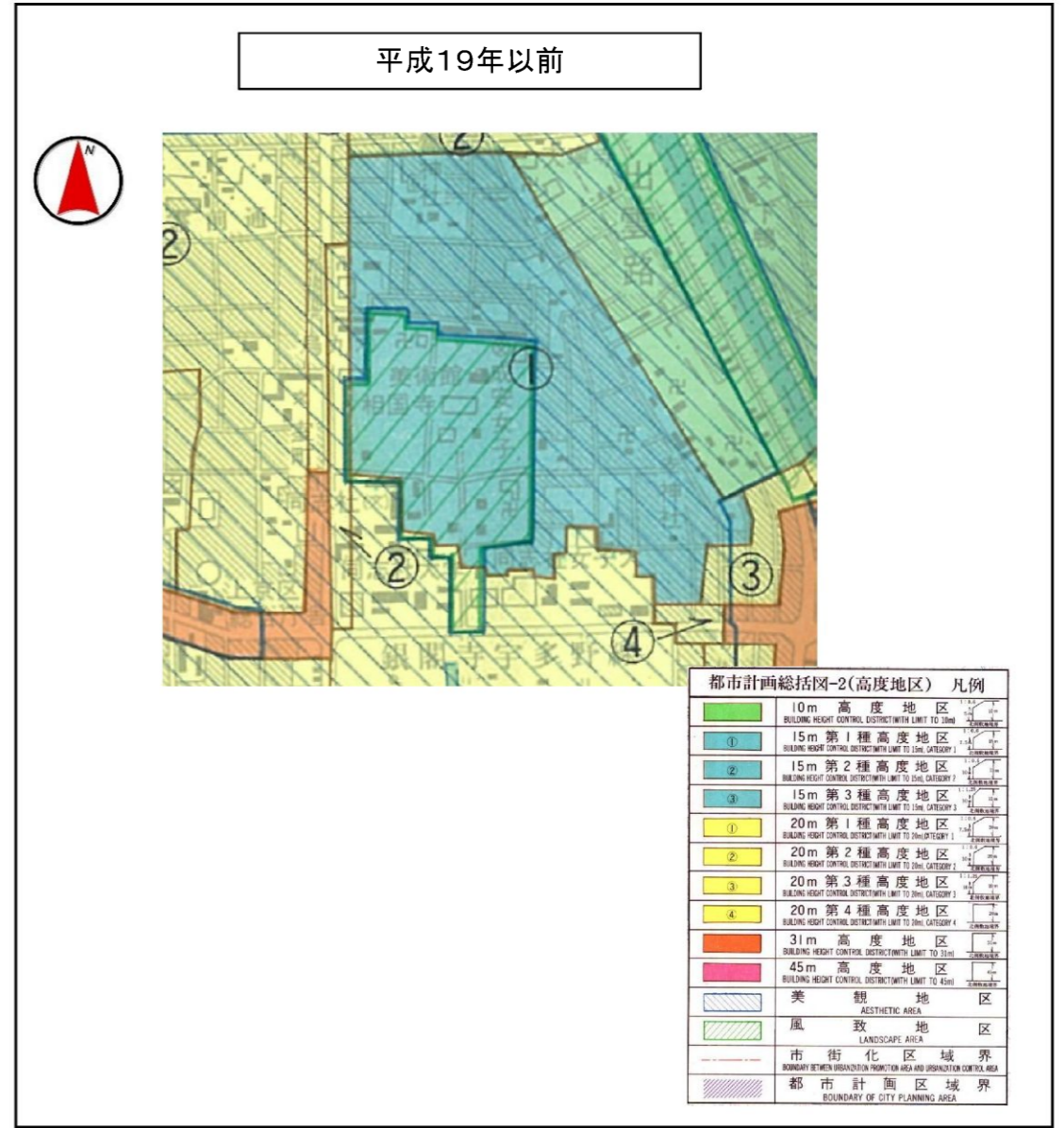


<p>同志社新島先生遺品庫<同志社大学></p> <p>切妻屋根平屋建て、煉瓦造であるが、耐火のために屋根スラブは鉄筋コンクリートとされた。戦時下ということもあってか、規模は24坪と小さいが、前面中央の出入り口はドリス式オーダーでペディメントを支えるエディキュラで飾られ、建物の性格にふさわしい拡張を見せる。(「京都市の近代化遺産」より抜粋)</p> 	<p>同志社啓明館（本館）<同志社大学></p> <p>書庫棟は切妻屋根をもった箱型の建物で、南北両面には上下に連続する窓を配し、東西妻面には半円アーチを持った窓が開けられた。本館は南四隅に塔をたて、エントランスホールと階段室にあて。立面はパトレス、タイル装飾などで複雑に分節されるが、力感に富んだ主出入り口のアーチが全体を引き締める。(「京都市の近代化遺産」より抜粋)</p> <p>建築年：大正4年、大正9年増築 設計：ヴォーリズ合名会社</p> 	<p>同志社啓明館（西館）<同志社大学></p> <p>書庫棟は切妻屋根をもった箱型の建物で、南北両面には上下に連続する窓を配し、東西妻面には半円アーチを持った窓が開けられた。本館は南四隅に塔をたて、エントランスホールと階段室にあて。立面はパトレス、タイル装飾などで複雑に分節されるが、力感に富んだ主出入り口のアーチが全体を引き締める。(「京都市の近代化遺産」より抜粋)</p> <p>建築年：大正4年、大正9年増築 設計：ヴォーリズ合名会社</p> 	<p>同志社致遠館<同志社大学></p> <p>煉瓦造で外壁は化粧煉瓦とする。玄関まわりを石材で縁取り、チューダー風の尖塔アーチを載せる。その上方の2階壁面も石材で額縁をめぐらしたブラインド・ウィンドウを配して意匠上のアクセントとする。また、1階窓上部を白石で飾るほか、2階壁面にもリントル・コース、シル・コースをめぐらす。北側玄関は木造の庇を設ける。(「京都市の近代化遺産」より抜粋)</p> <p>建築年：大正5年 設計：ヴォーリズ合名会社（推定）</p> 
<p>同志社女子大学ジェームズ館<同志社大学></p> <p>外壁仕上げは化粧煉瓦で、装飾的要素は少ないが、帯石と両翼のバルコニー、中央玄関の半円アーチなど少ない装飾的モチーフを効果的に設ける。「亀の尾」と称された持ち送りの形態や、バルコニーの手すりの形状にはゼツェッションの影響が強い。また、吹き抜けに半円状に張り出す2階廊下や装飾的な天井格縁の扱いなど、ユニークなディテールが目目を引く。(「京都市の近代化遺産」より抜粋)</p> <p>建築年：大正3年 設計：武田五一</p> 	<p>阿弥陀寺<寺町通沿い></p> <p>は蓮台山。浄土宗鎮西義(ちんぜいぎ)、知恩寺末寺。本尊は阿弥陀如来。脇壇には織田信長、信忠の影像を安置する。創建の詳細、変遷は不明。</p> <p>室町時代、天文年間(1532-1554)、清玉上人(生誉)が開創した。かつて近江国坂本にあったという。1555年、管領代の旧跡、芝薬師町(今出川大宮東、堀川西)に寺を建てる。上立売猪熊西入ルから今出川にかけて広大な境内を有した。三好長慶の禁制を与えられた。以来、室町幕府に外護された。永禄年間(1558-1570)、千部経読誦、別時念仏の時は禁制が出された。1563年、別時念仏の際、市場を開くことを認められ、織田信長の帰依を受けた。安土・桃山時代、1582年、本能寺の変後、織田信長が帰依した清玉は、信長、家臣の屍を境内に葬ったという。1587年、豊臣秀吉によるお土居築造と都市改造により、現在地に移転になる。江戸時代、1673年、延宝の大火により焼失する。1788年、天明の大火で焼失した。その後再建されている。(京都風光HPより)</p> 	<p>十念寺<寺町通沿い></p> <p>山号は華宮山、院号は宝樹院と号する。西山浄土宗、本尊は阿弥陀如来。</p> <p>室町時代、1431年、真阿(しんあ)のために、6代将軍・足利義教が誓願寺(元誓願寺小川)に住房宝樹院を建てたことに始まる。</p> <p>文明年間(1469-1487)以前、十念寺の寺号に改まる。その経緯については不明。1536年、焼失している。安土・桃山時代、1591年、豊臣秀吉の都市改造に伴い、現在地に移転になる。江戸時代、1673年、あるいは1675年の大火、1788年の天明の大火後に再建されたという。1788年、天明の大火後、本堂が再建された。室町時代の医師・曲直瀬道三の墓所がある。</p> <p>現代、1993年、僧で建築家・高口恭行の設計により本堂が竣工した。(京都風光HPより)</p> 	

景観規制の変遷



過去の高度規制



地形図の変遷

